

建設業の記入方法について

建設業を行っている多量排出事業者で、次のようなケースの場合の(第2面)の記入方法は下のとおりです。

前年度、神戸市、三田市、宝塚市及び篠山市で、がれき等の排出実績がある場合。

・神戸市の実績

神戸市内の工事現場で、がれきを1200t排出。

神戸市、姫路市、尼崎市、西宮市での多量排出については、各市ごとに報告が必要です。報告先も各市になります。

今回の場合は、神戸市分の実績をまとめ、書類一式を神戸市へ提出ください。

・三田市、宝塚市の実績 (例1、例2)

宝塚市内の工事現場で、がれき 1,500t、木くず 300tを排出。

がれき 1,500t、木くず 300tを中間処理業者へ再資源化(破碎処理)を委託。

三田市内の工事現場で、がれき 300t、木くず 700tを排出。

がれき 300t、木くず 700tを自社処理施設で再資源化(破碎処理)。

阪神北地域分の実績として品目ごとに集計し、例1、例2のとおり第2面を作成。

・篠山市の実績 (例3)

篠山市内の工事現場で、がれき 300tを排出。

がれき 300tを中間処理業者へ再資源化(破碎処理)を委託。

丹波地域分の実績を品目ごとに集計し、例3のとおり第2面を作成。

県管轄地域への提出し(例1、3)は、

計画の実施状況 (産業廃棄物の種類: 木くず) 事業者コード: 28JS00xxxxx 地域コード: 22(阪神北)

(事業者コード(28J)で始まる全10桁コード)が不明の場合、事業所名称を記入ください。

不要物等発生量 (単位:t)

例1

項目	実績値
排出量	1,000
+ 自ら再生利用を行った量	700
自ら熱回収を行った量	0
自ら中間処理により減量した量	0
+ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0
全処理委託量	300
優良認定処理業者への処理委託量	0
再生利用業者への処理委託量	300
熱回収認定業者への処理委託量	0
熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0

有償物量	0	0	700	0	300
排出量	1,000	0	700	0	300
自ら直接再生利用した量	0	0	700	700	0
自ら直接埋立処分又は海洋投入処分した量	0	0	0	0	0
自ら中間処理した量	700	700	700	700	0
のうちの熱回収を行った量	0	0	0	0	0
自社処理を行わずに直接委託処理した量(+)	300	300	300	300	0
直接中間処理委託量	300	300	300	300	0
直接委託中間処理後の残さ量	0	0	0	0	0
直接最終処分委託量	0	0	0	0	0
直接委託中間処理後の最終処分量	0	0	0	0	0
委託中間処理後の再生利用量(-):					300

品目ごとに1枚作成してください。

排出事業場の所在地の地域コードを記入してください。(コード表参照) 地域ごとに1枚作成してください。

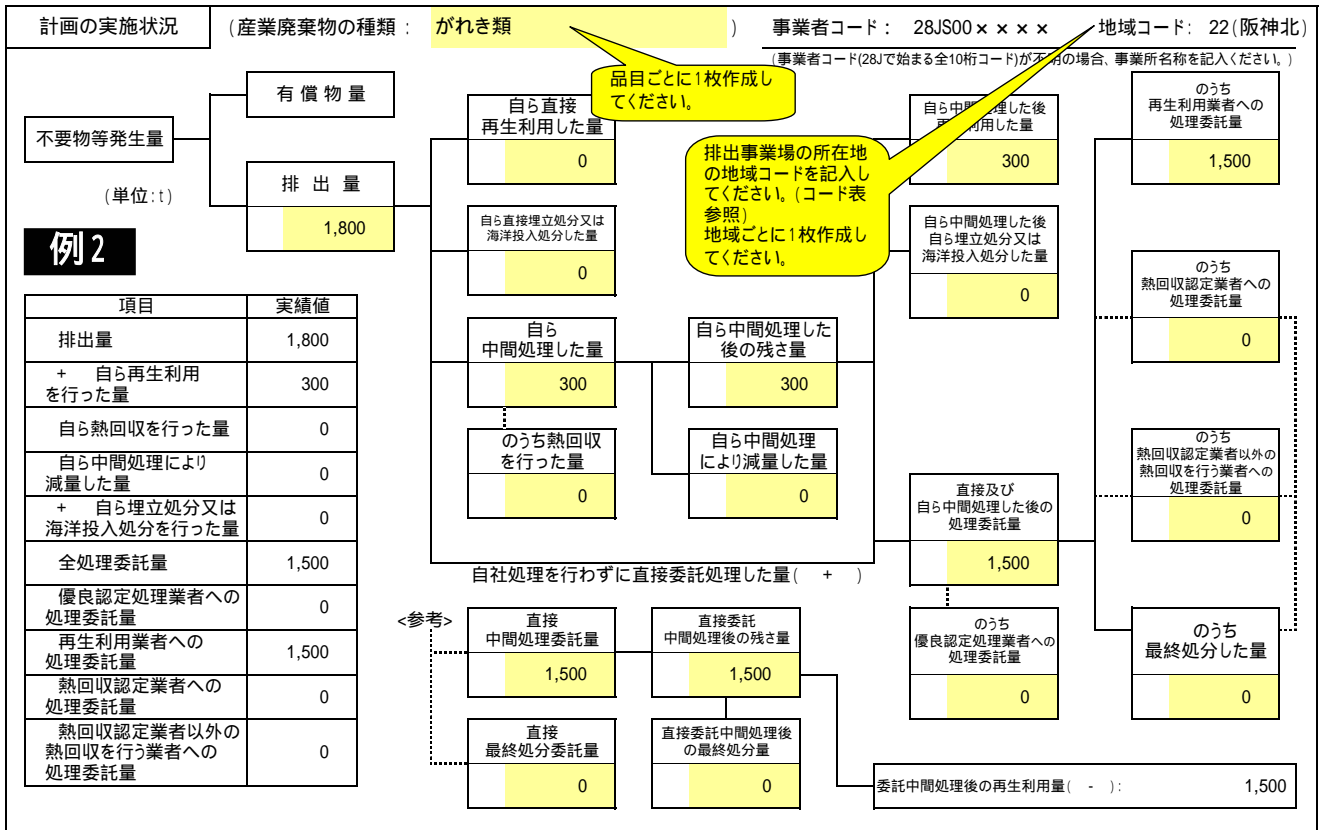
のうちの再生利用業者への処理委託量: 300

のうちの熱回収認定業者への処理委託量: 0

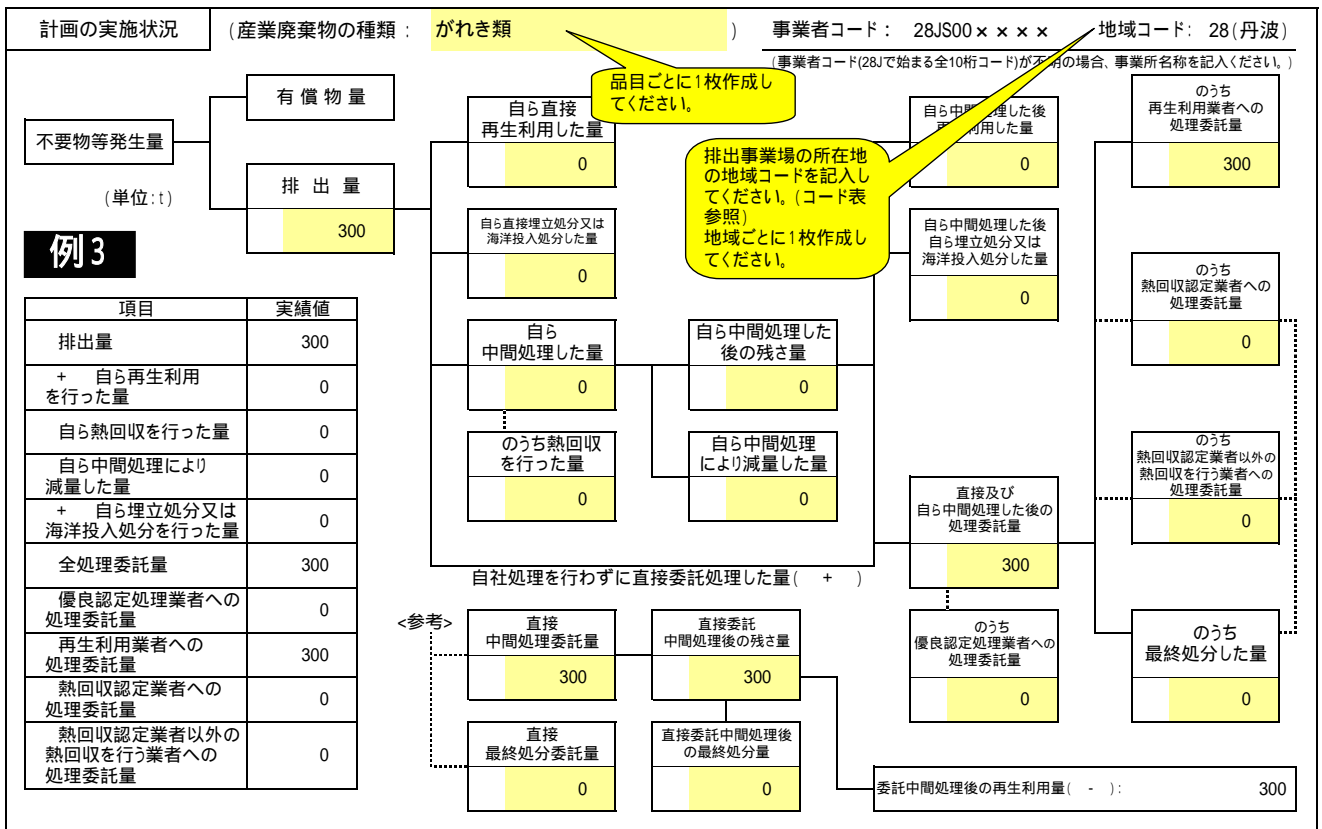
のうちの熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量: 0

のうちの最終処分した量: 0

(第2面)



(第2面)



(第2面)